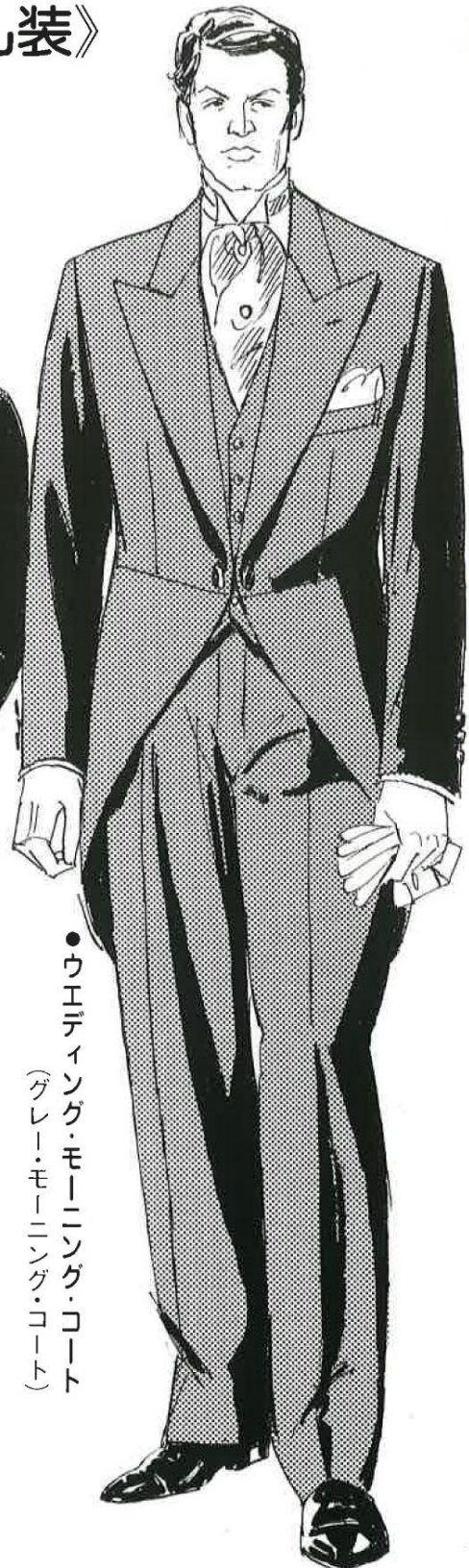


コーディネート図鑑

デザイン・イラスト・コレクション

慶弔の基本的装い

《正礼装・略礼装》



●正しく装う、優雅に装う！

礼装（フォーマルウェア）の着こなしポイントをひとつだけあげるとすれば、それはみんなと同じものを着るということに尽きる。場違いの服装ほどみっともないものはないのである。

TPOを守り、正しく装う。それをわきまえてこそ本当の大人、優雅の士となりうる。

エチケットやマナーをベースに成り立つのが、礼装の世界というものなのだ。

《正礼装》モーストフォーマル

●グレー・モーニング

デイトム（昼間）の正礼装（もっとも正しい装い）はモーニング・コートだが、なかでも最高の格調を持つのが全体をグレーで揃えたこれ。

別にアスコット・モーニングとかウエディング・モーニング・コートなどとも呼ばれるように、英国での競馬観戦や花婿の衣装によく用いられる特別な逸品である。

●モーニング・コート

婚礼、葬式など儀礼的な場に主役として着られることの多い昼間の正礼装である。慶弔の区分けはネクタイ、ベストはもちろんのこと、縞コルのストライプの広狭によっても決定され、広めが慶事。

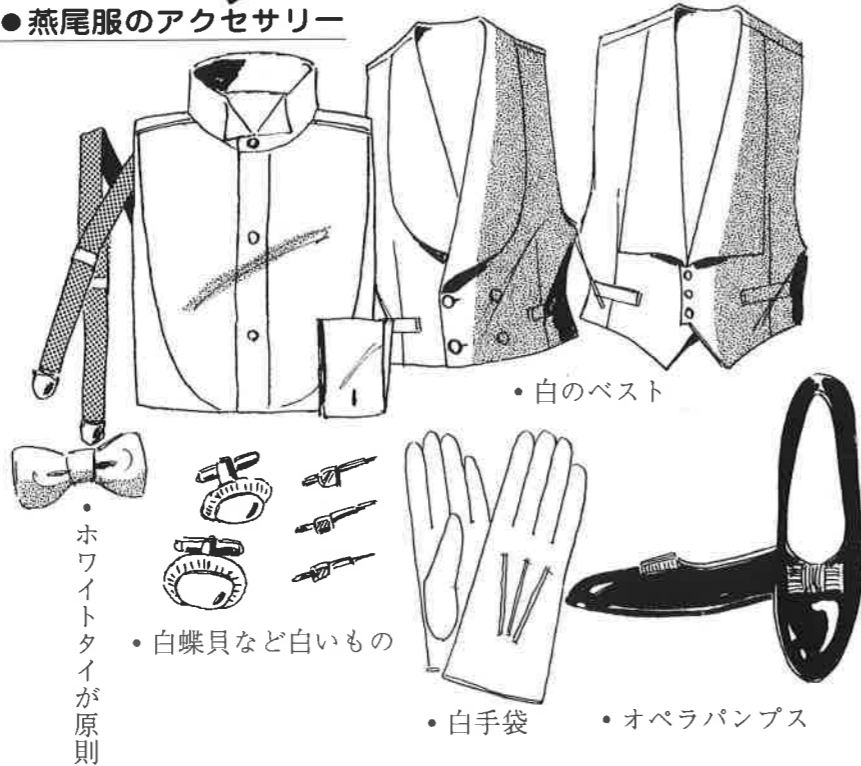
●テールコート（燕尾服）

夜間最高の正礼装。ホワイト・タイの指定はこれの着用を暗に促している。もっとも滅多にはないことだが…。

●モーニング・コートのアクセサリ



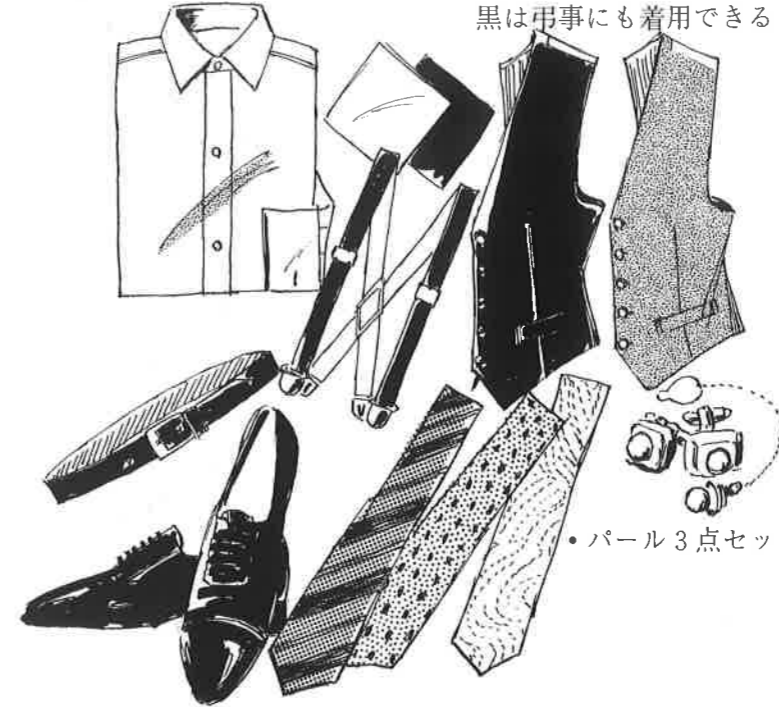
●燕尾服のアクセサリ



※アクセサリはモーニング・コートに準ずる

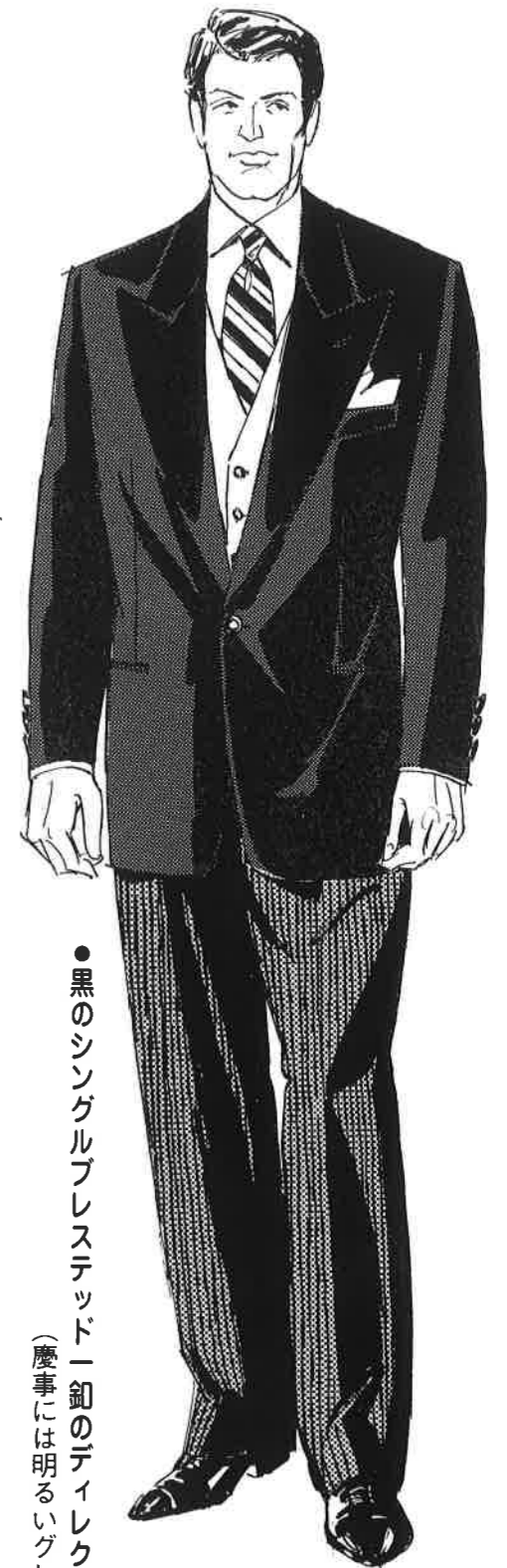
●ソフトカラー・シャツ

●グレー、黒のベスト
黒は弔事にも着用できる



●黒のストレート・チップ
またはプレーン・トウ

●ディレクターズ・スーツ



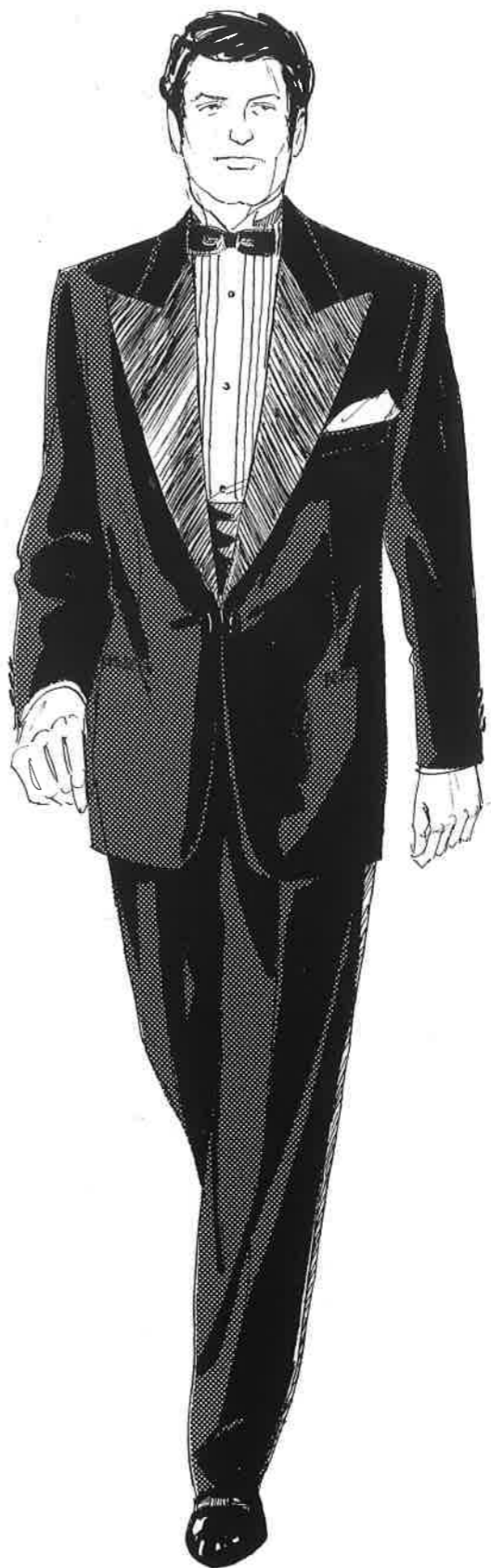
●黒のシングルブレストッド一釦のディレクターズ・スーツ
(慶事には明るいグレーのベストを…)



●黒のダブルブレストッド六釦のディレクターズ・スーツ
※縞柄のコールズボンが基本

《ブラック・タキシード》

※タキシードの最上格のブラック・タキシードは全体を白と黒でまとめる
※古典的なシヨールカラーと近代的なピークドラペルが代表的なスタイル



●シングルブレストードー釦シヨールカラーのブラック・タキシード
(スーツ・スタイル)

●シングルブレストードー釦ピークドラペルのブラック・タキシード
(スーツ・スタイル)

●他人に不快感を与えない！
礼を失さない装いをするのがフォーマルウェアの第一条件といえるが、マナーの最大原則は他人に不快感を与えないことである。これは服装にも会話にも食事の仕方にも、すべてに通じること。

決められた服装に身を包むのはその意味で大変重要で、これは正礼装だけでなく、準礼装や略礼装の場合も、けっして忘れてはいけないことなのである。

《略礼装》セミフォーマル～インフォーマル・ウェア

●ディレクターズ・スーツ

モーニング・コートに準ずる昼間の礼装がこれ。上着の形が異なるだけで、着こなし方もモーニングのそれと同じになる。つまり、慶事にはグレーのベストを用い、弔事には黒のネクタイとベストに変えることでOKとなる。

●ブラック・スーツ

黒の上下によるいわゆる略礼服。もっともなじみ深い、まことに便利な万能礼服だが最近では葬式と式典だけに限定しようとする傾向が…。

これもネクタイとベストで変化をつけるのが着こなしの原則となる。昼夜兼用。

●ダーク・スーツ

本当の意味でのインフォーマル・ウェア（略礼装）といえるのがこれ。昼夜問わず広範囲に使える現代的な礼服として、もっとも期待される。

●ダーク・スーツ



●ダーク・スーツはオールマイティーに：

※シャツ、ネクタイ、靴などはモーニング・ディレクターに準ずる

●ブラック・スーツ



●ブラック・スーツは弔事に：



●共地のベストや明るいグレーのオッド・ベスト

●弔事には黒のネクタイ、カフスはオニキス

《カラー・タキシード》

●セパレーツ・スタイルのタキシード①

ジャケットにひかえ目な色を使い、黒の拝絹、黒のスラックスは同色の側章のあるものを使用するのが原則



・シャツはレギュラーカラーのフライフロント。クロス・タイとカマーバンドは黒の絞織

・ジャケットは濃紺地に黒の拝絹をつけたピークドラベル。スラックスは黒地に黒の側章。シャツは白でレギュラーカラーのフライフロント

●濃紺タキシード(スーツ・スタイル)

ブラック・タキシードの次に位置するスーツ・スタイルで、すべて濃紺と白でコーディネート



・濃紺地に同色の拝絹、スラックスに同色の側章。ボウ・タイ、カマーバンドも濃紺。シャツは白のウイングカラー、靴はエナメルのおペラパンプスとブラック・タキシードに準ず

●正装の快感

19世紀末から20世紀にかけて、昼間の正礼装がフロックコートからモーニングコートに変わっていったように、20世紀末のいま、タキシードが燕尾服に変わって、夜間の正礼装にとってかわろうとしている。

そうするとタキシードは21世紀の正礼装とみなしてもよい。そして、夜だけでなく午後の礼服として伸びていくだろうことも想像に難くない。

そこで、まずは正統派のタキシードの着こなしを正しくマスターしておきたい。

〈着こなしポイント〉

正統派のブラック・タキシードの着こなしは、原則をけっしてはずさないということにつきる。

第一に着用時間を守る(タキシードは原則的に夕方からの礼装である)、次に慶事のみ用いる(パーティが主)。

そして、着装は黒と白だけでまとめることである。正統派のタキシードにおいて奇をてらうというのは、かえってみっともないことなのだ。

●Vゾーンの構成

正統派のシャツはウイングカラー、ブリーツ付きのタキシード・シャツ。これに黒のボウ・タイと共地のカマーバンドをつける。(ヒダは上向き)

忘れていけないのはスタッド・ボタン(カフスリンクと同色)とサスペンダー。タキシードにベルトは絶対禁物!

●フットゾーンの構成

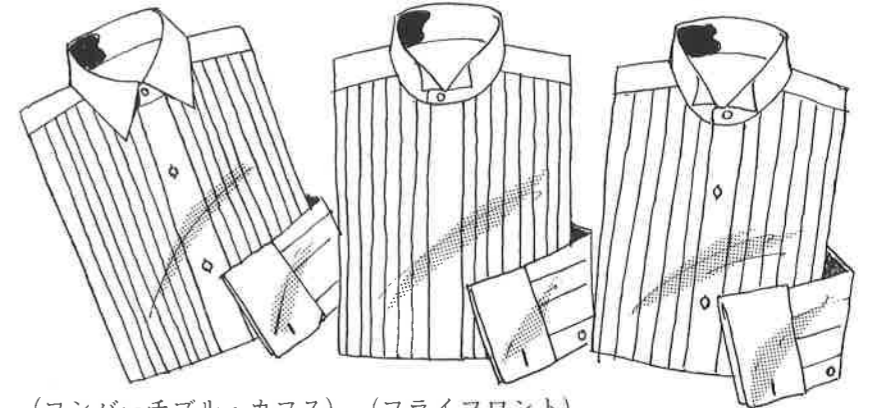
黒の薄手の長靴下にエナメルの靴(パンプスあるいはスリッポンタイプ)が原則。これで正装の快感が高まる。

●タキシードのアクセサリー

・タキシード・シャツ(ブリーツ入り)

・レギュラーカラー・シャツ

・ウイングカラー・シャツ



(コンバーチブル・カフス) (フライフロント) (ダブル・カフス)

・黒蝶貝やオニキスのカフス・ボタンとスタッド・ボタン



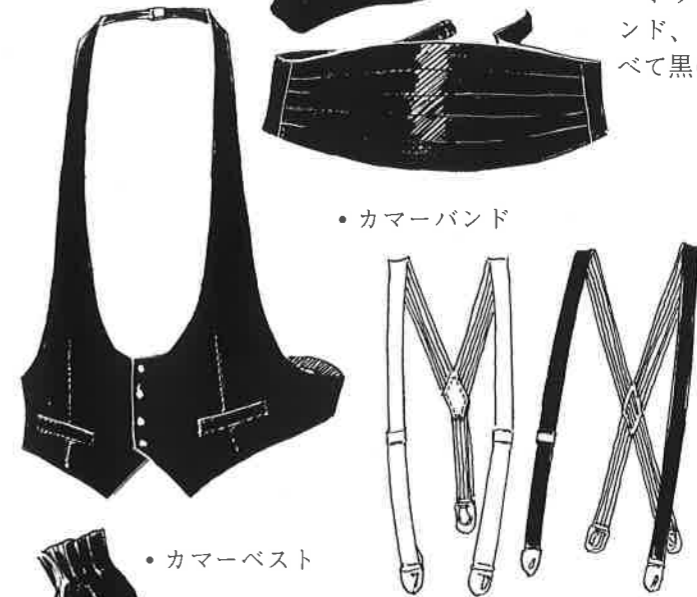
・黒のボウ・タイ

・ポケットチーフは白、シルバー



・ボウ・タイ、カマーバンド、カマーベストはすべて黒の共地

・カマーバンド



・カマーベスト

・サスペンダーは必ず使用

・靴はエナメルのオペラパンプス

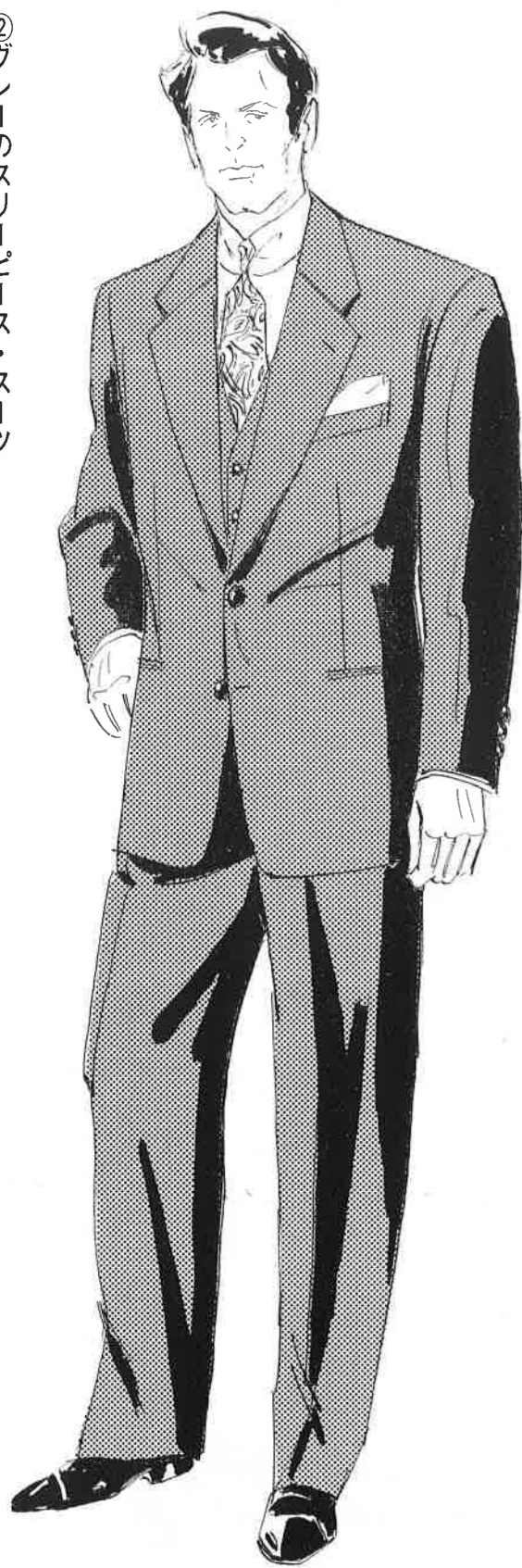


・黒の長靴下

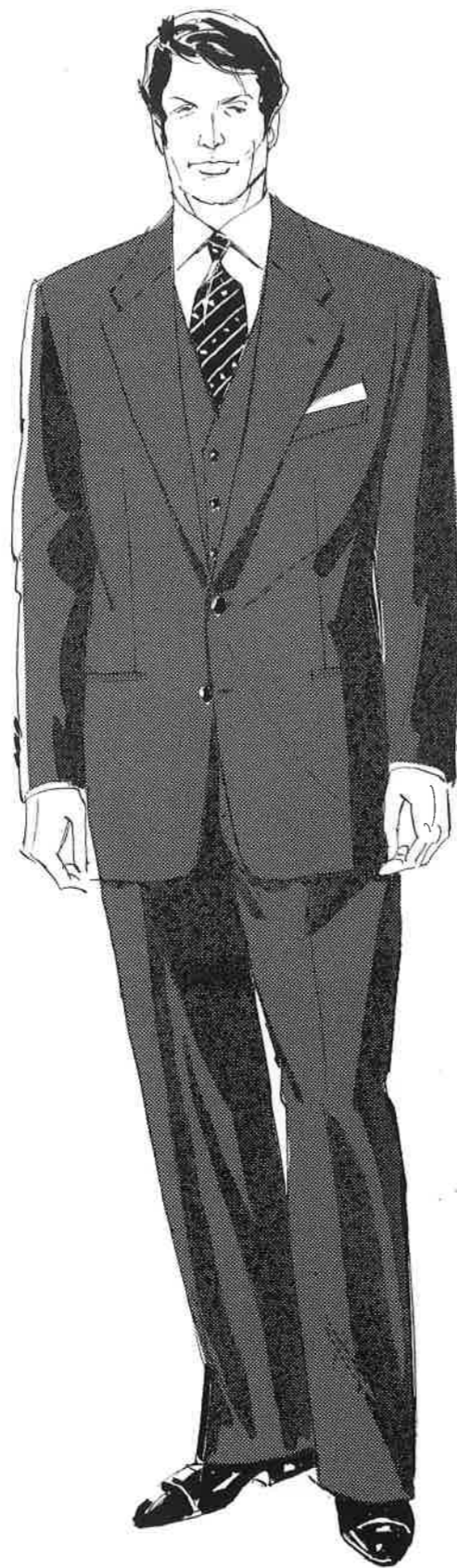


(エナメルのプレイントウのスリッポンタイプでも可)

② グレーのスリーピース・スーツ



多目的に着こなすスリーピース・スーツ2組



① 濃紺のスリーピース・スーツ

●スタイル主義の確立を…
「男にとって重要なのはファッションではなく、スタイルである」などよくいわれるように、紳士たるものファッション（流行）だけで服を着るものではない。

とって、ただ着ていけばよいというのはいかがでしょうか？

男はすべからずスタイル主義で着こなすべし、というのが私の変わらぬ主張。それぞれ確固としたスタイルを確立して、堂々と着こなせばよいのである。

さて、濃紺スリーピース・スーツに続いて選ぶ2着目のスーツは何を選ぶか？

これはまず多目的に着られる、つまり着回しできることを第一に考えてみたい。前回もいったが、一着の服がひとつの目的にしか使えないというのでは、現代的な着こなすとはいえないからである。

そうすると、ここではグレーのスリーピース・スーツが最適の選択となってくる。

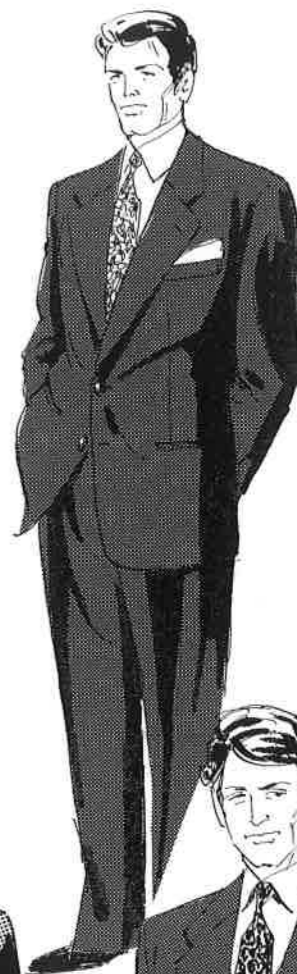
〈セレクトッド・ポイント〉
気をつけるべきは、それぞれのデザイン性、スタイル、素材感に共通性を持たせること。色の調子（トーン）も揃えておきたい。

これが極端に異なると（たとえばアメリカン・タイプとヨーロピアン・タイプなど）まるで合わなくなってしまうおそれがあるので、ことに注意を要したいのである。

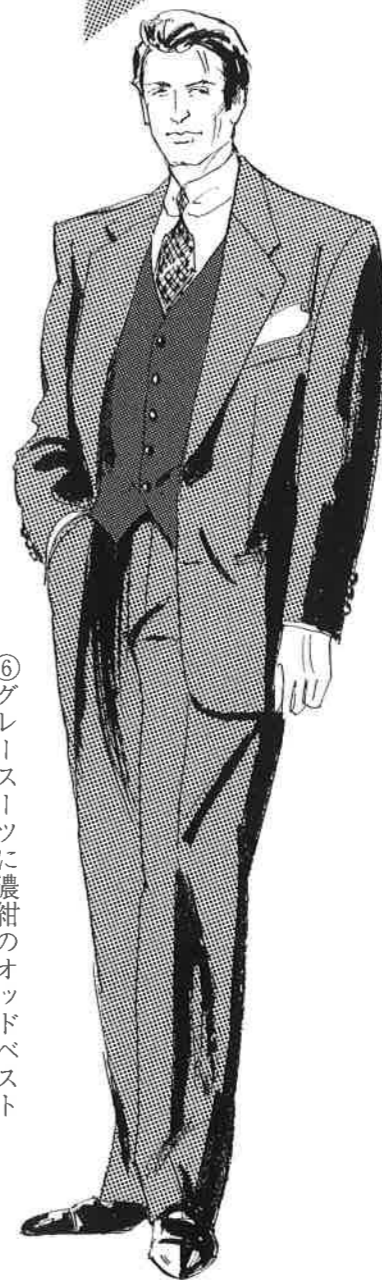
④ グレーシングル・スーツ



③ 濃紺シングル・スーツ



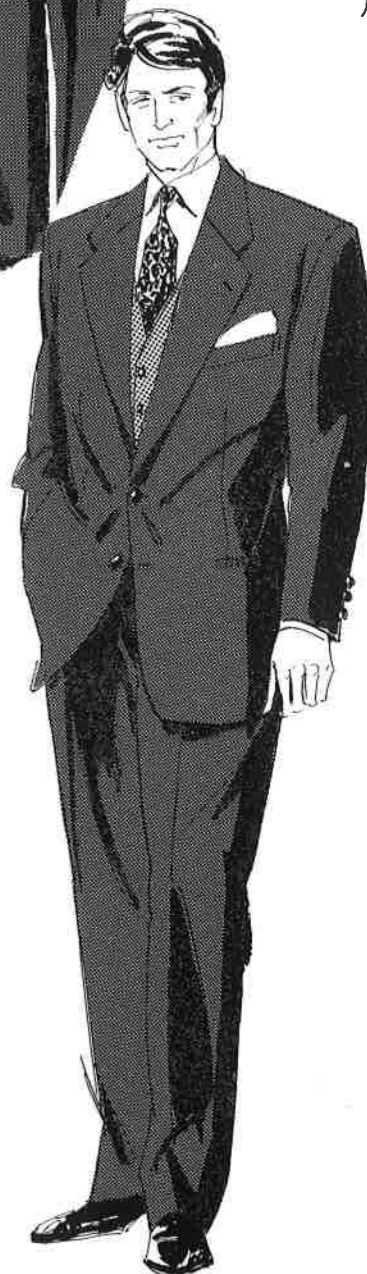
⑥ グレースーツに濃紺のオッドベスト



●ベストを替えたオッドベスト・スーツ・スタイル

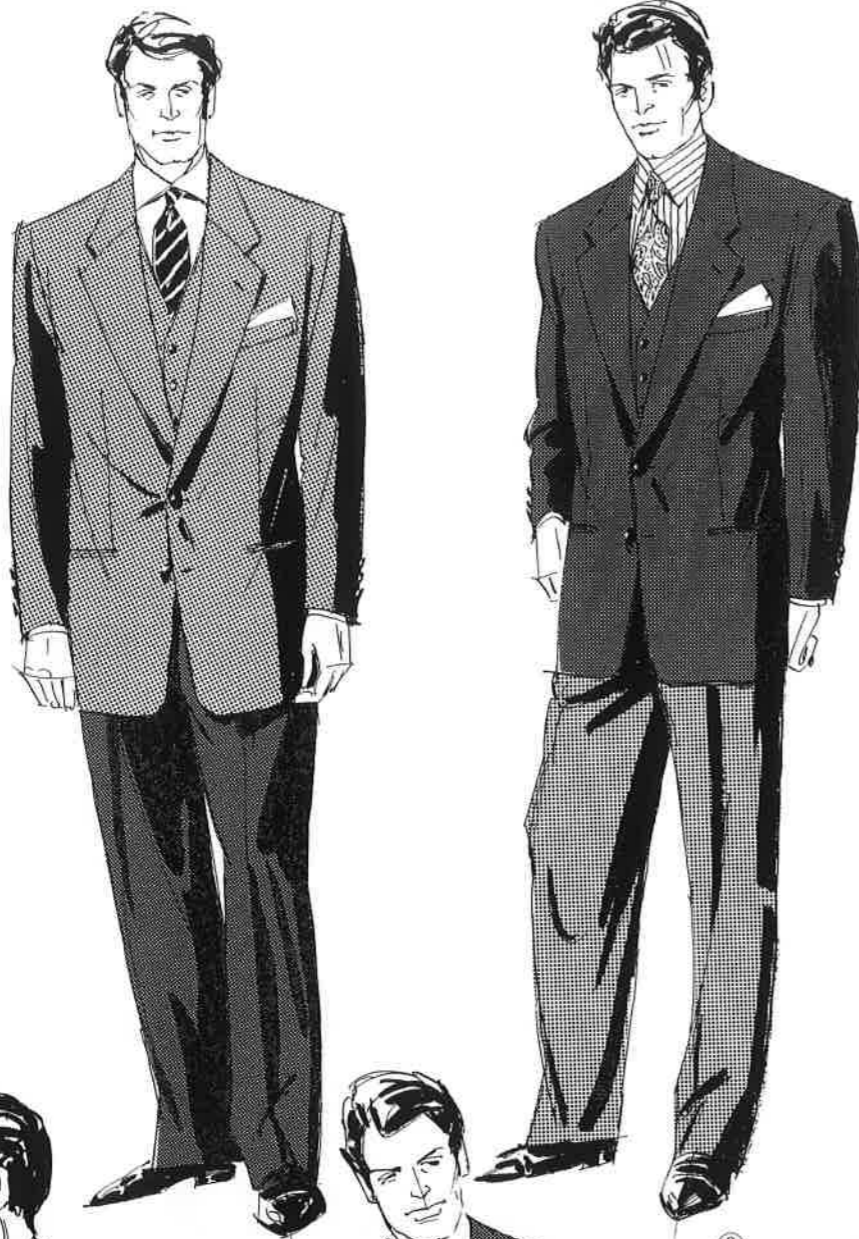
●ベストをはずしたツーピース・スーツ・スタイル

⑤ 濃紺スーツにグレーのオッドベスト



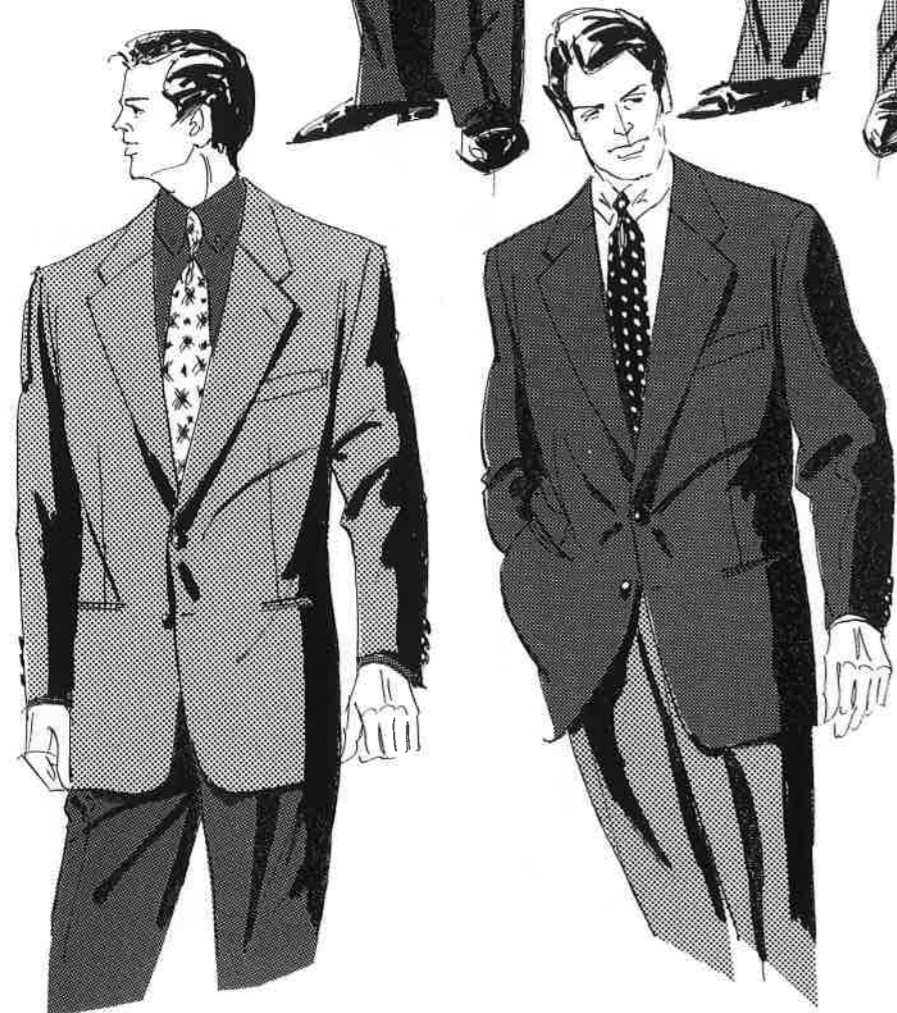
● ジャケットとベストが共地のセパレート・スタイル

⑧ グレースリーピース・スーツのストラックスを濃紺に



⑦ 濃紺スリーピース・スーツのストラックスをグレーに

⑩ グレージャケットに濃紺のストラックス
※ともにスーツ・ライクに決める



⑨ 濃紺ジャケットにグレーのストラックス

● シンプルなセパレート・スタイル

● どこまで着回せるか…

2着のスリーピース・スーツを組み合わせると、イラストに示すとおり12ものスタイルができあがることになる。

もっとも基本的なスリーピース・スーツを中心として、ベストを外せば一般的なビジネス向きのツーピース・スーツへ、またベストをチェンジすれば現代的なオッド・ベスト・スーツへというように、スーツ・スタイルはさまざまな変化を見せてくれるのである。

それをさらにダイナミックに変化させるのが、コーディネイト・スーツ・スタイルへの挑戦ということになる。

コーディネイト・スーツというのは純然たる背広（リアル・スーツ）とスポーティーなセパレート・スタイルの中間的な存在のアイテムで、いわばスーツ・ライクに着ることのできるセパレート・スタイルということができる。

形はセパレートだが感覚はスーツということで、このへんの気分はフォーマルウェアのディレクターズ・スーツと似ている。

その自由闊達なコーディネーションの変化はイラストで確認してもらいたいが、こうしたスタイルがこれからは増えてくると思われる。いくらスーツを解体しても基本的にスーツ・ライクだから着やすいことはいうまでもない。

● 共地のベストとストラックスにジャケットを組み合わせるコーディネート・スーツ・スタイル

⑫ 濃紺ベストとストラックスにグレーのジャケットはドレッシーな雰囲気



⑪ グレーベストとストラックスに濃紺のジャケットはカジュアル・ライフな雰囲気

コーディネート図鑑